

外伝

《初詣発祥の多摩川、下流域の川文化》

川崎大師（注1）は、弘法大師を祀り、初詣の参拝客が多いことで、全国的に有名です。そもそも、初詣の歴史は新しく、大師電気鉄道（現京浜急行電鉄）と川崎大師がタイアップし、正月に乗客を呼び込むために考えたイベントが全国に広まったものです。

川崎駅の近くに、「女体神社」があります。創建は、16世紀末の室町時代と伝えられています。対岸の大田区六郷の農民が、移住し開拓したのですが、相次ぐ氾濫で農耕ができなくなります。そのとき、一人の女性が、人柱となって水中に身を投じ、その後大災害に見舞われませんでした。この功德を称える祠がルーツです。（注2）

川崎大師の近くに、「若宮八幡宮」があります。創建は、16世紀中頃と推定され、鎌倉の鶴岡八幡宮の氏子たちが、移住し創建したものです。主祭神は、仁徳天皇で、淀川の治水を成し遂げたことにあやかっています。境内には金山神社があり、4月の「かなまら祭」はネットで話題となり、世界から観光客が訪れます。

大師河原（川崎市）と羽田（大田区）の両方に水神社があります。主祭神が同じ（注3）ですから、ルーツは同じだと推察されます。川崎側の水神社の由来は、江戸時代初期の新田開発の際に建立された村社ということですから、その後の多摩川の流れて、両岸に分かれたものでしょう。

時代が下って江戸時代後期になると、羽田（大田区）に「穴守（あなもり）稲荷神社」が創建されます。羽田沖に新田開墾したとき、海が荒れて堤防に穴が開いて大災害を受けたため、1804年に祠を創ったのが始まりです。名前は、堤防の穴の害から人々を守るということに由来します。以降、「穴守」が性病から守るに通じると、遊女達の信仰を集めたそうです。

ところで、最近（2016年11月26日）、「多摩川七福神巡り」が始まりました。これは、大田区武蔵新田商店街が中心となって企画したものです。コミュニティバスの「たまちゃんバス」に乗って、巡りことができるそうです。「たまちゃん」とは、2002年（平成14）多摩川に迷い込んで話題を集めたアゴヒ

ゲアザラシの愛称です。

注1：川崎大師は、1128年、海中に投げ入れた網を引き上げると、弘法大師の木造が出てきたことから、それを祀るために創られました。

注2：川崎の「女体神社」の主祭神は、イザナギノミコト（男神）とイザナミノミコト（女神）という男女2人の神様を祀っています。一方、大宮には、「氷川女体神社」は、スサノウノミコト（男神）を祀る氷川神社に対し、クシナダヒメノミコト（女神）だけを祀っています。

注3：水の神様は数々いらっしゃいますが、多摩川下流の水神社は、ミズハノメという水の神様を祀っています。奈良県吉野にある川上丹生神社（伊勢神宮と同格の旧官幣大社）の主祭神と同じです。

写真は、①位置図（Yahoo 地図に細見加筆）、②本の表紙（山と溪谷社出版）、③多摩川七福神巡りのチラシ（大田区HP掲載資料より）

①



